

社会科学習指導案

指導者 石津 誠

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 3 学年 2 組 23 名 [3 年 2 組教室]
- 3 単 元 名 農家の仕事 ～向島のみかんづくり～

4 単元設定の理由

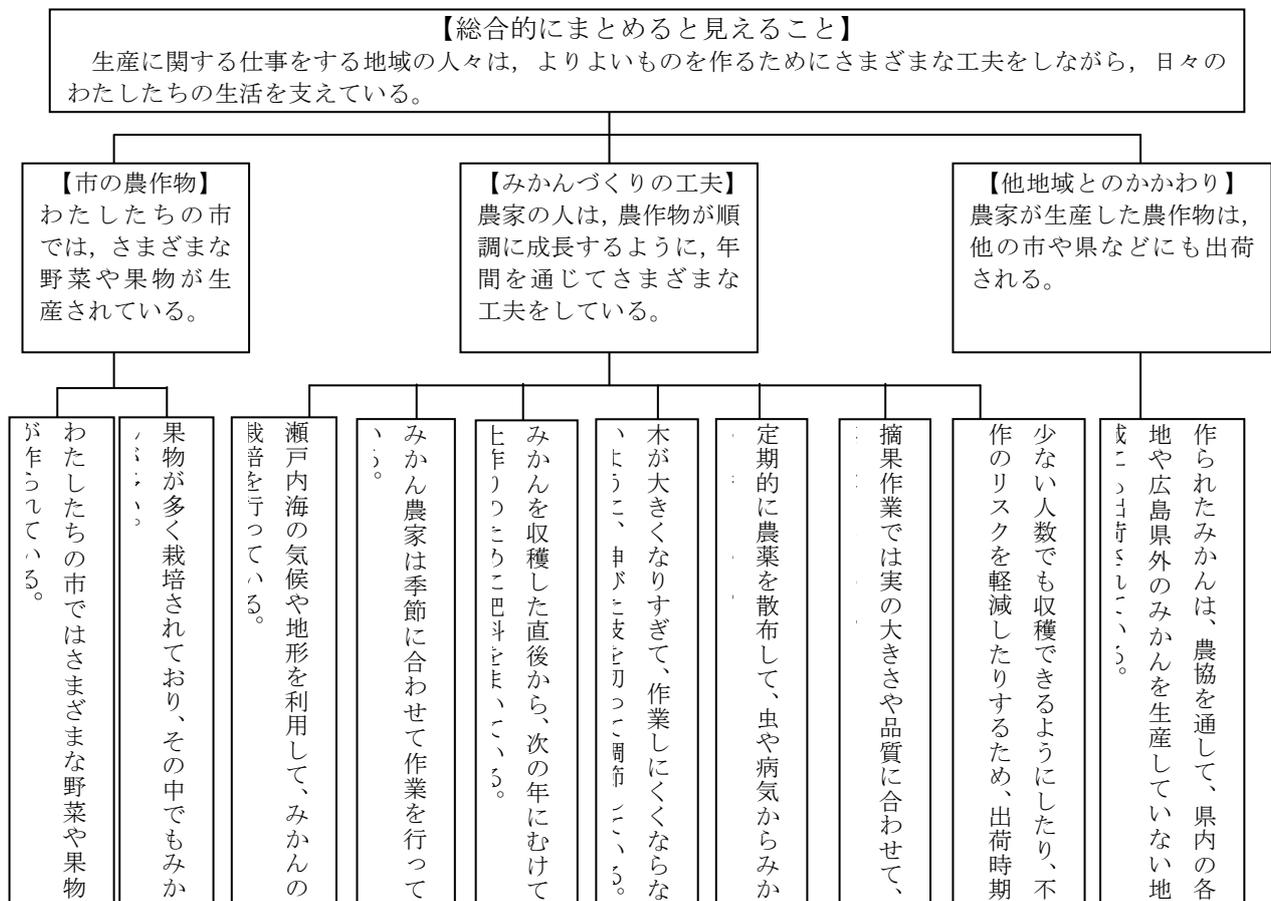
- 本単元は、小学校学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかかわり。

内容構造図



本単元では、わたしたちの市には農作物の生産に関する仕事があり、その仕事に見られる工夫を調べて考えることをねらいとしている。

尾道市の農業は、出荷額・耕地面積ともに果物が約半数を占め、その中ではみかんの割合が最も高く、みかんは尾道市を代表する農作物である。尾道市南部では、斜面の多い地形を生かして、みかんが盛んに生産されている。みかん農家の方は、季節に合わせて様々な作業を行っている。これらの作業では、作業のしやすさや売れ筋のみかんをつくるための工夫が見られる。特に摘果作業では、木になる8割のみかんを落として、残り2割のみかんの味がよくなるようにしている。さらに、ほどよい大きさで傷のついていないみかんが残るように不要な実を落とすことで、みかんの品質を高めている。また、剪定作業を行いや複数の品種を育てることで、作業を効率的に行うことができるようにし、少ない人数で多くの実を収穫したり、複数の品種を育て不作のリスクを軽減している。このように、みかん農家の方は、みかんの品質を高めたり、作業を効率的に進めたりするために様々な工夫をしている。

本校は、市街地に位置しており、田畑に囲まれている環境ではない。そのため、児童が農業を目にする機会がほとんどない。本単元では、向島のみかんづくりを調べ、生産に関する仕事をしている人々は、よりよいものを作るために様々な工夫をしていることを考えさせるようにする。

- 本学級の児童は社会科の学習に対して意欲的に取り組んでいる。地図を用いた調査活動や調べたことをまとめる活動では、分布を読み取るための色分け作業に熱心に取り組んだり、自分が興味をもった地域について伝えようとする姿が見られた。

一方で、本学級の児童は、田が広がっている地域や建物が多い地域など、地域の特徴を捉えることができたが、地形や道路と結びつけて考えることが難しかった。一つの事柄を捉えることはできるが、複数の事柄を結びつけたり比較したりしながら考えることは十分とはいえない。

- 指導にあたっては、次の手立てを行いながら単元を構成する。

① 児童の関心を高め理解を深める収穫体験活動

農家の仕事が身近でないため、作業の様子がイメージできない児童が多いことが予想される。農家の仕事に関心をもたせ、実感を伴った理解をさせるため、みかんの収穫体験を通して学習する。斜面での作業を体験することで、そこで働く農家の人の仕事を考えたり、作業の大変さに気付いたりできるようにする。

② 農家の方にインタビューするなどの調査活動

みかんづくりについて理解を深めるために、農家の方にインタビューを行う。児童から疑問を引き出せるようにするため、「どのように」「どのくらい」等の言葉を用いて考えていくようにする。児童から出た意見を分類し、質問内容にまとめていくようにする。

③ 思考を深める手立て

みかんづくりの工夫を考える際には、深く考えるために、自分の意見をたくさん書き出させるようにする。また、書き出した意見を全体の場で吟味することで、思考を深めるようにする。

④ 調べたことを表現するパンフレットの作成

学習のまとめでは、みかんを食べる人に向けて、みかんづくりに込められた工夫を伝える、パンフレットを作成する。調べた内容を深く理解させるとともに、相手を意識させることで、伝えようとする意欲を高める。

5 研究主題との関わり

- (1) 本学級では、これまで理由を示しながら自分の考えを相手に伝えることを意識して学習に取り組んできた。自分なりの理由をもって意見を発表する児童は増えてきた。しかし、相手の考えを自分の考えと結びつけながら聞くことはできていない状況がある。
- (2) 本単元では、工夫を話し合う活動を取り入れる。自分の考えを発言する際には、相手の意見に賛成か反対かを示すようにし、自分と相手との類似点や相違点を発表できるようにする。相手の意見を踏まえて発言することで、様々な意見を取り入れながら自分の意見を考えていくようにし、児童の思考を深めさせていきたい。

6 単元の見込み

- わたしたちの市には農作物の生産に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事にみられる工夫や他地域とのかかわりを考えようとする。
- わたしたちの市の農家の仕事の様子から学習問題を見だし、見学・調査したり、資料を活用したりして調べるとともに、農家の仕事と自分たちの生活とのつながりについて考えたことを適切に表現する。

7 単元の評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判 断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象につい ての知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	○農家の仕事の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとするとともに、農家の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。	○農家の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、農家の仕事の工夫を自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現している。	○観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、農家の仕事の様子について必要な情報を集めて読み取り、分かったことを白地図や作品などにまとめている。	○わたしたちの市には農作物の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、農家の仕事に見られる特色や他地域などのかかわりを理解している。

学習活動における 具体の評価規準	○尾道市にはさまざまな農作物をつくる農家があることに興味をもって、調べようとしている。	○みかん農家の仕事に関心をもち、つくり方に着目して学習問題を考えている。 ○農家では、おいしいみかんをつくるために行っているさまざまな工夫について考えている。	○調べる内容にもとづいてインタビューし、仕事の特色や工夫についてまとめている。	○農家の仕事は、自分たちの生活にかかわっており、農家の仕事に見られる特色や他地域などのかかわりを理解している。
---------------------	---	--	---	---

8 指導計画（全11時間）

次	学 習 活 動	評価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
一	尾道市産の作物を調べ、尾道市の農業の様子を捉える。(1)	○				○ 尾道市にはさまざまな農作物をつくる農家があることに興味をもって、調べようとしている。	行動観察
	みかんづくりには、どんなひみつがあるだろう。						
	尾道市の南部で、みかんがさかんに作られている理由を考える。(1)		○			○ みかんがさかんに作られている理由を、地形や気候と結びつけながら考えている。	
	みかんづくりについて調べ、農家の方に質問することを話し合う。(1)		○			○ みかん農家の仕事に関心をもち、つくり方に着目して学習問題を考えている。	ワークシート
二	みかんの収穫体験をし、みかん農家の方に質問をする。(2)			○		○ 調べる内容にもとづいてインタビューし、仕事の特色や工夫についてまとめている。	ワークシート
	調べて分かったことを、年間のカレンダーにまとめる。(1)			○		○ インタビューして調べた内容を、適切にカレンダーにまとめている。	ワークシート

	複数の品種のみかんを育てていることについて話し合い、作業を効率的にするための工夫について気付く。(1)		○		○ 作業を効率的に行うための農家の方の工夫について考えている。	ワークシート
	肥料・農薬散布・摘果などの様々な作業について知る。(1)			○	○ よりよいみかんをつくるために、様々な作業が行われていることを理解している。	ワークシート
	お店に並んでいるみかんについて考え、お客さんに人気のあるみかんをつくる工夫に気付く。(1, 本時)		○		○ 人気のあるみかんをつくるために農家の方が行っている工夫について考えている。	ワークシート
	つくられたみかんが、尾道市だけでなく、市外や県外にも出荷されていることを理解する。(1)			○	○ みかんの出荷を通して、他地域とつながっていることを理解している。	
三	みかんづくりのひみつを知ってもらおう。					パンフレット
	みかんづくりを調べて分かったことをまとめ、みかんを食べる人に知ってもらうためのパンフレットをつくる。(1)		○		○ みかんづくりを調べて分かったことや考えたことを、適切にまとめることができる。	

9 本時の展開

(1) 本時の目標

大きさの揃ったみかんを出荷している理由について考え、農家の工夫に気付く。

【社会的な思考・判断・表現】

(2) 観点別評価規準

○ みかん農家が、様々な作業をして、みかんの大きさをそろえている理由を考えている。

【社会的な思考・判断・表現】

(3) 本時のポイント

農家の方が、みかんの大きさを揃えるために様々な作業をしていることを捉え、それは消費者のニーズに応えるみかんをつくるための工夫であることに気付かせる。

(4) 準備物

資料, ワークシート

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 みかんづくりの作業を振り返り、どのようなみかんを作ろうとしているか予想させる。 2 どんなみかんが多く作られているかを知る。	○ 自分が食べたいみかんを考えたり、みかんづくりの作業を想起させたりして予想させる。 ・甘いみかんを作ろうとしている。 ・大きなみかんを作ろうとしている。 ○ 大きさ・味・見た目などについて、一番多く出荷されているみかんについて知る。 ・大きすぎず小さすぎないみかん ・糖度の高いみかん ・傷のないみかん ○ 自分の予想と比較させ、疑問を導く。	
なぜ農家の人は、甘く、中ぐらいで、傷のないみかんを作っているのだろう。		
3 「甘い」「中ぐらい」「傷のない」みかんを作っている理由を、それぞれ考える。	・甘いみかんを作っているのは、お客さんに喜んでもらうためだと思う。 ・傷のないみかんを作っているのは、見た目がきれいなみかんの方が売れるからだと思う。 ○ 自分だったらどんなみかんが食べたいかを考えることで、生産者の立場だけでなく消費者の立場からも考えられるようにする。	
4 考えを交流する。	○ 自分の希望だけでみかんを作っているのではなく、消費者のニーズにも合わせてみかんを作っていることに気付かせる。 ・甘くて傷のないほどよい大きさのみかんが、消費者のニーズに合っている。	○ みかん農家の方が、みかんの大きさをそろえるために様々な作業をしている理由を考えて

		いる。(ワークシート)
<p>5 農家の方の話の資料を配り，理由を確認する。</p> <p>6 学習のまとめをして，ふり返りをする。</p>	<p>○ 自分の考えた理由を重ね合わせながら聞くようにする。</p> <p>○ 農家の方の工夫を，様々な作業と結びつけて説明する。</p> <p>○ 「他者視点」「自己モニター」を意識して，ワークシートに書かせる。</p>	